

看護師養成課程の多様化と卒業後のキャリア志向の 展開：総合病院勤務看護師へのアンケート調査より

吉本，圭一
九州大学

立石，和子
九州看護福祉大学

<http://hdl.handle.net/2324/10669>

出版情報：日本教育社会学会大会発表要旨集録. 58, pp.343-344, 2006-09-22. The Japan society of Educational Sociology

バージョン：

権利関係：本文データは学協会の許諾に基づきCiNiiから複製したものである



看護師養成課程の多様化と卒業後のキャリア志向の展開

—総合病院勤務看護師へのアンケート調査より—

吉本圭一（九州大） ○立石和子（九州看護福祉大学）

1. 問題の設定

本研究の課題は、多様な教育課程が存在する看護師養成教育において、教育課程の特質と卒業後の職業キャリアとの継続教育に関わる実態や意識との関連を解明することである。

看護師の基礎教育課程は、養成所（専門学校）中心の教育体系から、大学教育中心へ変化を遂げている現状のなかで、種々の看護基礎教育課程とは関係なく一律に‘看護師’として病院等に勤務している。就業現場では、実践能力の低下と、それに関わる看護基礎教育の充実、特に大学教育の延長が話題となっているのが現状である。看護師養成教育は、社会的要請のもとで、より専門職業人養成に焦点をあてながら大学化が進んできた。

看護教育における大学（総合大学の看護系学部を含む）は、1991年にはわずか11校であったものが、2006年4月の時点では、145校となり来年度には、160校を超える予定である。反対に、養成所（専門学校）は、廃校や統廃合されている。

しかし、そこでは、多様な養成課程の長所・短所についての実証的な検討を踏まえ、大学化の適切さについての明確なコンセンサスが形成されているわけではない。

看護系人材の養成システムに関しては、1951年の保健婦助産婦看護婦類法の改正時より、人材（たとえば、看護師・准看護師など）や養成システムの複雑さが指摘され続けている。吉本（1996）は、錯綜する専門職養成教育の問題として、長学歴化方向の危惧を指摘し、それぞれの段階における一定の幅と深さをもった「スペシャリストへの学習」の体系化の必要性を述べている。

今日多くの職場で、能力主義的な評価制度が導入され、就職後の能力開発を随時実施し、業績に連動する能力を獲得していく必要性が強調されており、看護界でも、能力評価制度が取り入れられ、人事考課と利用されるようになってきた。そこで、

仮説として、養成所卒業者は、就職後の継続教育によるキャリアを積むことで、「スペシャリストとしてのスキルアップへとつなげている」とする。

本研究は、教育制度の統一もなく、基礎教育課程の評価も系統的になされていない現状に対して、就職した看護師のキャリア志向を実証的に明らかにすることを通して、今後の看護師の継続教育、大学教育のあり方を検討するための基礎作業を目指すものである。

2. 方法

関東地方（東京都、千葉県、埼玉県）および九州地方の300床以上の総合病院を抽出し、無作為に122病院へアンケート調査を依頼し、承諾を得た26施設にアンケート調査を依頼した（一部倫理審査を受け承諾を得た）。対象者は、看護基礎教育課程卒業後2～10年目をとした。調査期間は、平成18年2～3月。調査内容は、「日欧の高等教育と職業に関する研究」（吉本ほか2001）で用いられた調査項目を参考として作成した。配布人数599名で回答345名（回収率58%）であり、有効回答314名であった。分析には、統計パッケージSPSS13.0を使用した。

3. 結果

対象者の属性

対象の経験年数を、卒業後2～3年目を‘新人’、卒業後5～6年目を‘中堅’、卒業後10～15年目を‘エキスパート’とした。（表1）（今回の報告では、専攻科および大学卒業者エキスパートはデータとして人数が少ないため省いた。）

短期教育・長期教育経験

それぞれの卒業課程と経験年数により、就職後の長期教育（3ヶ月以上）と短期教育（3ヶ月未満）の経験について質問した。長期教育は、養成

所卒業者・エキスパートが最も受講している。長期教育の内容としては、臨地実習指導、認定看護師、教員養成などであった。短期教育は、大学卒業者が多く50%以上が何らかの短期教育を受けていることがわかった。(表2, 3)

今後の進学希望

大学進学希望者(大学卒業者以外)は、新人20.4%、中堅11.9%、エキスパート9.3%であった。大学院への進学希望者は、大学卒業者・新人13.6%、中堅8.6%に対し、養成所卒業者・新人2.7%、中堅0.0%、エキスパート1.8%であった。短大卒業者は新人の8.3%だけであった。

より専門性を求める、認定看護師への資格取得希望者は、養成所卒業者のすべてのキャリア段階で3割前後に見られた。また、大学院進学を伴う専門看護師についても、養成所卒業者に希望者が多い。大学院進学希望は、大学卒業者新人が最も多い。それらより、養成所卒業者は、学位や修士号よりも、より実践に直結する資格取得を希望していることが伺えた。(表4)

4. まとめと考察

病院に勤務する看護師へのアンケート調査結果からは現在、多様な基礎教育課程を卒業した看護師が勤務していることが明らかとなった。さらに、大学卒業者の新人は、キャリア形成をめざしてさらに上級課程への進学を希望している。

ところが多様な基礎教育課程を経た新人においても、やはり大学卒業者における教育機会が比較的が多い傾向がうかがわれた。この結果から導かれることとは、大学在学時の可塑性(フレキシビリティ)に富む教育体制ではないかと考える。すなわち今日の看護系大学における教育とは、そのスキルアップの対象として看護師のみならず、大学院への進学をはじめとし、保健師、助産師、養護教員など多様な進路選択の可能性を包括している。そのことが、進学や資格取得へつながっているのではないかと考える。

もう一つ注目する点は、養成所卒業者においては、短期・長期教育への受講者が多いということである。特に、中堅・エキスパートにおいて顕著であった。これは、一方で急速な看護基礎教育大学化の流れに対抗して、現職者が既成の大学という教育形態ではない、別の再教育(リカレント教育)のチャンスを求め、専門的知識の新情報を学習して積極的にキャリアを得ようとしていること

と解釈できる。

看護師には、看護師実務経験後さらに専門性を習得するためのステップとして、認定看護師(実務3年)、専門看護師(実務5年)の制度があり、大学や修士課程進学に関しても、実務経験に対応した種々の編入および進学の機会が与えられている。本研究の調査結果は、①大学卒業→資格取得(大学院)、②短大・養成所卒→進学→資格取得(長期教育)、という二極分化傾向を示唆しておりさらにこの傾向は、新人のほうにより顕著であった。すなわち、在職者の率直な意識はその卒業課程に関係なく、既成の大学進学などによって学歴を得ることよりも、むしろ実務に即応する可能性の見込まれる専門性、すなわち資格取得を求めていることが明らかとなった。

表1 卒業課程と卒業年数(人)

	新人	中堅	エキスパート	合計
大学	59	35	5	99
短大	12	14	18	44
養成所	37	70	57	164
専攻科	1	3	3	7
合計	109	122	83	314

表2 卒業課程・経験年数と長期教育(%)

	新人	中堅	エキスパート	全体
大学	6.8	22.9		17.2
短大	8.3	7.1	22.2	13.6
養成所	8.1	12.9	36.8	20.1
全体	7.4	15.1	31.3	16.6

表3 卒業課程・経験年数と短期教育(%)

	新人	中堅	エキスパート	全体
大学	54.2	54.3		54.5
短大	8.3	71.4	61.1	50.0
養成所	45.9	50.0	57.9	51.8
全体	46.3	53.8	58.8	52.4

表4 認定・専門看護師、大学院への希望者(%)

卒業課程	希望資格	新人	中堅	エキスパート
大学	認定看護師	37.3	11.4	
	専門看護師	18.6	20.0	
	大学院	13.6	8.6	
短大	認定看護師	16.7	42.9	38.9
	専門看護師	8.3	35.7	16.7
	大学院	8.3	0.0	0.0
養成所	認定看護師	24.3	31.4	22.8
	専門看護師	29.7	27.1	29.8
	大学院	2.7	0.0	1.8